

学校教育目標	自ら学び 伝え つながる深谷っ子 ○進んで学習に取り組み、自分の考えを深め、豊かに表現できる力を育てます。(知) ○互いのよさを認め合い、自他を大切に育てます。(徳) ○規則正しい生活習慣を身に付け、心身ともにたくましく生きる力を育てます。(体) ○深谷のまちを愛し、地域や社会のために自ら行動する力を育てます。(公) ○様々な人とのふれあいを通して、広い視野でともに生きていく力を育てます。(開)				
	創立 52 周年 児童生徒数: 225 人	学校長 杉田 仁 主な関係校: 深谷中学校・汲沢中学校・横浜深谷台小学校	副校長 宮崎 博隆	2 学期制	一般学級: 8 個別支援学級: 2

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	深谷中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 育成を目指す資質・能力を踏まえた 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
<言語能力> <心身ともにたくましく生きる力> <自分づくりに関する力>	深谷中学校 深谷小学校 横浜深谷台小学校	自ら学び 様々な人とつながり 互いに認め合う子ども ・小中合同授業研究会を通して、授業改善に取り組むことにより、9年間を見通した確かな学力を身に付けられるようにする。 ・9年間で育てる子ども像を共有し、FPh(Fukaya Peace to our heart)の理念のもと、小中一貫カリキュラムの教育活動を展開する。 ・児童生徒の交流や情報共有により、中学への円滑な接続ができるようにする。

中期取組目標	○子ども一人ひとりの思いを大切にしながら、対話的な学びを充実させます。 ・学習の楽しさを実感できる授業づくりを推進し、主体的に学ぶ力を育てます。 ・言語活動の充実を図り、子どもの表現を大切にしながら伝え合う力を育てます。 ・子ども一人ひとりが多様性を認め合い、協働する教育活動を通して自分の考えを深めるようにします。 ○まちの「人・もの・こと」とのつながりを大切に、豊かな体験を通して、深谷のまちを愛する心を育てます。 ・一人ひとりが自己有用感をもち、楽しく学校生活が送れるようにします。
--------	---

重点取組分野	具体的取組				
<table border="1"> <tr> <td style="background-color: yellow;">知</td> <td>授業改善</td> </tr> <tr> <td>担当</td> <td>重点研究推進委員会</td> </tr> </table>	知	授業改善	担当	重点研究推進委員会	①単元や一単位時間で、育成を目指す資質・能力を明確にした授業づくりをする。②日々の授業改善を進め、適切な言語活動を通して、相手意識や目的意識をもち豊かに表現する力を育成する。③児童が学習方法を選択しながら、主体的に学習を進められるようにする。
知	授業改善				
担当	重点研究推進委員会				
<table border="1"> <tr> <td style="background-color: yellow;">徳</td> <td>道徳教育</td> </tr> <tr> <td>担当</td> <td>道徳部</td> </tr> </table>	徳	道徳教育	担当	道徳部	①豊かな心の育成を目指して、道徳科を要として学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育を推進する。②年間学習指導計画を見直し、道徳科と各教科、学校行事との関連を強くし、実践を伴った道徳性を養う。③道徳科年間指導計画に沿った、全学級の道徳科授業公開を年1回以上実施する。
徳	道徳教育				
担当	道徳部				
<table border="1"> <tr> <td style="background-color: yellow;">体</td> <td>健康教育</td> </tr> <tr> <td>担当</td> <td>体育部・食育部</td> </tr> </table>	体	健康教育	担当	体育部・食育部	①体育的な行事、授業で目標を意識して運動しようとする高める。自己決定し、継続して体を動かそうとする意識を高める。②学校保健委員会や給食指導により食の大切さに気付かせ、家庭に向けての発信を多くし、家庭と連携して生活リズムを整えようとする姿勢を培う。
体	健康教育				
担当	体育部・食育部				
<table border="1"> <tr> <td style="background-color: yellow;">公 開</td> <td>自分づくり教育 (キャリア教育)</td> </tr> <tr> <td>担当</td> <td>特別活動部</td> </tr> </table>	公 開	自分づくり教育 (キャリア教育)	担当	特別活動部	①たてわり活動の充実による異学年との交流を通して、自分の思いの実現に向けて行動・計画をすることで、自己有用感を高めるようにする。②自らの学習状況やキャリア形成を見通したり、振り返ったりして、自己評価を行うとともに、主体的に学びに向かう力を育み、自己実現につながるものとなるようにする。
公 開	自分づくり教育 (キャリア教育)				
担当	特別活動部				
<table border="1"> <tr> <td style="background-color: yellow;">いじめへの対応</td> <td></td> </tr> <tr> <td>担当</td> <td>いじめ防止対策委員会</td> </tr> </table>	いじめへの対応		担当	いじめ防止対策委員会	①教育相談やアンケートにより些細な変化を見逃さず、積極的にいじめを認知し、子どもの心情に寄り添う。②毎月1回以上、いじめ防止対策委員会を実施し、いじめ認知案件の経過を丁寧に確認・再発防止に努める。③研修により教職員のいじめに対する感度や組織的な対応力を高める。
いじめへの対応					
担当	いじめ防止対策委員会				
<table border="1"> <tr> <td style="background-color: yellow;">人 材 育 成 ・ 組 織 運 営 (働 き 方)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>担当</td> <td>教務部・メンター研究部</td> </tr> </table>	人 材 育 成 ・ 組 織 運 営 (働 き 方)		担当	教務部・メンター研究部	①メンター研修を月1回行い、自主的な課題を設定して学び合う場を設ける。②週1回の教務会に加え、ドライブやミラタイムでの情報共有を積極的に行い、全体を見通して学校運営を進める。③教科分担任による教材研究の効率化、AIDリルの活用、ICT活用による事務の効率化を図り、組織的な働き方改革を進める。
人 材 育 成 ・ 組 織 運 営 (働 き 方)					
担当	教務部・メンター研究部				
<table border="1"> <tr> <td style="background-color: yellow;">地 域 学 校 協 働 活 動</td> <td></td> </tr> <tr> <td>担当</td> <td>教務部・共有ボランティア部</td> </tr> </table>	地 域 学 校 協 働 活 動		担当	教務部・共有ボランティア部	①学校運営協議会や共有ボランティアネットワークと目指す子ども像を共有し、連携を深めて学びの充実を図り、深谷の「まち」を愛する心を育てる。②あいさつ運動・地域の方とふれあう活動や感謝の気持ちを伝える機会を年間計画に位置付け、相手意識・目的意識をもって展開し、感謝の気持ちや思いやりの心を伸ばす。
地 域 学 校 協 働 活 動					
担当	教務部・共有ボランティア部				
<table border="1"> <tr> <td style="background-color: yellow;">特 別 支 援 教 育</td> <td></td> </tr> <tr> <td>担当</td> <td>特別支援委員会</td> </tr> </table>	特 別 支 援 教 育		担当	特別支援委員会	①定期的な特別支援委員会や関係職員とのカンファレンスにより、教育的ニーズに応じて適切な学習形態や方法を選び、きめ細かな指導・支援を行う。②児童の情報共有を迅速に行い、組織的に安心安全な教育環境を整える。③特別支援教育に関する研修により、教職員の指導力を向上し、効果的な指導・支援をする。
特 別 支 援 教 育					
担当	特別支援委員会				
<table border="1"> <tr> <td style="background-color: yellow;">児 童 生 徒 指 導</td> <td></td> </tr> <tr> <td>担当</td> <td>児童指導部</td> </tr> </table>	児 童 生 徒 指 導		担当	児童指導部	①児童支援専任を中心に各ブロック職員と連携し、組織的な児童理解・児童指導に努め、迅速で丁寧な対応をする。②全職員で児童の状況を随時共有し、児童に寄り添ったきめ細やかな支援・指導をする。③不登校児童の実態に応じて組織的に連携して登校支援や学習支援をする。
児 童 生 徒 指 導					
担当	児童指導部				
<table border="1"> <tr> <td style="background-color: yellow;">情 報 教 育</td> <td></td> </tr> <tr> <td>担当</td> <td>情報教育部</td> </tr> </table>	情 報 教 育		担当	情報教育部	①情報モラル教育とともに、デジタルシチズンシップ教育を計画的に行えるようにする。②学校図書館の計画的な利用や読書活動の推進と取組のさらなる充実を図る。③自分の学習状況に合わせて1人1台端末を活用し、適切な情報と、自分に合った学び方を選択する力を育む。
情 報 教 育					
担当	情報教育部				